

愛知県

定数：15名

立候補者数：17名



氏名 野々垣 聡
氏名ふりがな ののがき さとし
都道府県士会 愛知県
年齢 47
勤務先名称 愛知県青い鳥医療療育センター

日本理学療法協会活動歴

2018年1月～2021年10月 (公社)日本理学療法士協会 ガイドライン・用語策定委員会 小児システマティックレビュー班班長
2018年4月～現在 (公社)日本理学療法士協会 代議員

都道府県理学療法士(協)会活動歴

2021年6月～現在 (公社)愛知県理学療法士会 理事

学会連合及び同連合会員団体活動歴

2021年9月～現在 (一社)日本小児理学療法学会 評議員
2025年4月～12月 第12回日本小児理学療法学会学術大会 準備委員長

立候補の趣旨

近年、理学療法士の活動領域は、医療機関内にとどまらず、地域や生活により近い場へと広がりつつあります。2024年10月に改定されたこども家庭庁の「産前・産後サポート事業ガイドライン」および「産後ケア事業ガイドライン」において、実施担当者として理学療法士が明記されたことは、その流れを具体的に示すものだと感じています。産前・産後という重要な時期に理学療法士が専門性をもって関われることは、母子保健分野においても大きな意味を持ち、今後の活動の広がりが期待されています。

また、認定スクールトレーナー制度の開始により、学校保健分野においても理学療法士が関わる機会が広がろうとしています。これまで、障害を持つ子どもの成長や発達に関わる機会はありませんでしたが、一般の学童期の子どもたちに対して、予防的・継続的に関わる仕組みは限られていました。成長期に特有の身体特性や運動器の課題に対し、理学療法士の視点が生かされる場面は多く、今後は母子保健と学校保健の両面から、保健分野における役割がより明確になっていくと感じています。

こうした新しい取り組みを継続的かつ実効性のあるものとしていくためには、日本理学療法士協会と各都道府県士会が密に連携し、情報共有や人材育成、活動の基盤づくりを進めていくことが重要だと考えます。私は現在、士会の理事という立場で活動しており、現場の声を身近に感じると同時に、協会との連携の必要性も強く感じています。その立場を生かし、制度の動きと現場の実情との間をつなぐ役割を担いたいと考え、この度、代議員に立候補いたしました。



氏名 稲垣 圭亮
氏名ふりがな いながき けいすけ
都道府県士会 愛知県
年齢 37
勤務先名称 藤田医科大学地域包括ケア中核センター

日本理学療法協会活動歴

2024年～現在 日本理学療法士協会 代議員

都道府県理学療法士（協）会活動歴

2019～2021年 愛知県理学療法士会 名古屋南ブロック委員
2021～2025年 愛知県理学療法士会 医療保険業務部 部員
2021～2025年 愛知県理学療法士会 尾張東部地区支部 部員
2023～2025年 愛知県理学療法士会 介護予防事業部 部員
2025年～現在 愛知県理学療法士会 介護予防事業部 部長

学会連合及び同連合会員団体活動歴

立候補の趣旨

私は前回の代議員選挙において、厚生労働省への出向を通じて職能団体の重要性を強く実感した経験を、理学療法士の未来に関わる組織運営の意思決定に活かしたいと考え、立候補させていただきました。その結果、代議員として活動する貴重な機会をいただきました。

初めて代議員として活動したこの2年間では、協会運営への理解を深めるとともに、理事の方々の適性を見極めるため、必ず理事会の傍聴を行ってまいりました。また、総会においては事前質問の提出や当日の口頭質問の機会を積極的に活用し、主に生涯学習制度や理学療法士の地域活動に関して意見交換を行ってきました。これらの活動を通じて、協会における組織運営の重要性や代議員の役割の重みをより一層実感し、今後も継続して代議員を務めたいと考え、今回の代議員選挙への立候補を決意いたしました。

近年、入会率の低下や退会・休会者の増加が進む中で、まず必要なのは協会と会員との信頼関係の構築だと考えています。私自身、認定理学療法士臨床認定カリキュラム教育機関の運営に携わる中で、協会の対応に不信感を抱いた場面もありました。会員がこのような思いを抱くことのない組織運営が実現できるよう、協会との建設的な意見交換を重ね、組織の発展に貢献してまいりたいと考えております。

皆様のご支援を賜りますよう、何卒よろしくお願い申し上げます。



氏名 木村 圭佑
氏名ふりがな きむら けいすけ
都道府県士会 愛知県
年齢 44
勤務先名称 豊田地域医療センター

日本理学療法協会活動歴

2019年度～2024年度 産業領域業務推進部会 部会員
2025年度～ 産業保健・人間工学および母子保健推進リーダー育成カリキュラム検討部会 部会員
2024・2025年度 (公社)日本理学療法士協会 代議員

都道府県理学療法士(協)会活動歴

2025年度～ (特非)愛知県理学療法学会 渉外連携部 部長

学会連合及び同連合会員団体活動歴

2022年度～ 日本産業理学療法研究会 理事
2025年度～ 第1回日本理学療法学会連合学術総会 広報部員

立候補の趣旨

私は2024・2025年度の代議員として、第53回・第54回定時総会にて主に重点目標で掲げられていた「専門職としてのキャリアデザインの支援」を中心に、高年齢者雇用安定法の改正に合わせ、理学療法士として70歳まで働き続けることができるためのキャリアデザインへの支援について等の質疑を行いました。
また、前回の立候補趣旨の中で掲げた「高年齢労働者の就労支援」や「産業保健」分野を体系的に学ぶ制度の確立、養成校や初学者の理学療法士向けの産業保健分野のテキストの発刊についても、その後協会内の事業として継続して進めていただいております。2026年度には双方について何らかの形で会員へ周知できる見込みとなっております。こちらは代議員の一人として間接的ではありますが、微力ながら同事業の後押しができたと自負しております。
最後になりますが、本年の4月から私が関わっている産業保健分野において大きな動きがあります。それは、「令和7年法律第33号 労働安全衛生法及び作業環境測定法の一部を改正する法律」にて、「高年齢労働者の労働災害防止に必要な措置の実施を事業者の努力義務とする」ことが決まったことです。今後さらに理学療法士の専門性を活かすことができる機会が広がっていくとともに、同分野における理学療法士の育成は急務となっております。社会課題に貢献し得る理学療法士の育成を後押しする協会活動となるよう、引き続き2026・2027年度も代議員として活動していく所存です。何卒ご支援の程、よろしくお願い申し上げます。



氏名 永田 英貴

氏名ふりがな ながたひでき

都道府県士会 愛知県

年齢 45

勤務先名称 日本赤十字社愛知医療センター名
古屋第二病院

日本理学療法協会活動歴

令和7年度～ 日本理学療法士協会 理学療法士労働環境委員会 委員
令和7年度～ 日本理学療法士協会 卒前卒後教育シームレス化検討部会 部員

都道府県理学療法士（協）会活動歴

令和4, 5年度 愛知県理学療法士会 財務部副部長
令和6年度～ 愛知県理学療法士会 職能局理業務部 職域別役職者WS 助言者
令和7年度～ 愛知理学療法学会 事業局 渉外連携部

学会連合及び同連合会員団体活動歴

令和6年度～ 日本理学療法管理学会 理事
令和7年度～ 日本理学療法教育学会 評議員
令和6年度～ 日本理学療法管理学会 理学療法管理ガイドライン委員
第7回日本理学療法管理学会学術大会（2024） 事務局長
第8回日本理学療法管理学会学術大会（2025） 事務局員
第9回日本循環器理学療法学会学術大会（2025） 運営部長

立候補の趣旨

私は、病院において臨床・教育・組織運営に携わる管理者として、協会総会に提出される議題を現場の実情と照らし合わせて審議することが、代議員の重要な役割であると考え、立候補いたしました。

愛知県は全国有数の会員数を有し、急性期から回復期、在宅まで多様な医療・介護現場を抱えています。一方で、働き方改革や診療報酬改定、若手理学療法士の価値観の変化などにより、臨床現場や教育体制は大きな転換期を迎えています。

代議員として、総会の各議題について、その必要性や妥当性を管理者の視点から丁寧に検討しつつ、議題が臨床現場の臨床、教育、人材育成にどのような影響を及ぼすのかを多面的に捉え、短期的な判断にとどまらない審議を行いたいと考えています。

将来を担う理学療法士が安心して成長できる教育環境を維持・発展させることは、専門職としての質を守る上で不可欠です。愛知県の多様な現場を代表する立場として、誠実に役割を果たしてまいります。

さらに、教育と臨床、制度が分断されることなく連動するよう、現場での経験や課題を整理し、建設的な議論につなげ、根拠に基づいた意見形成を大切にします。



氏名 平野 明日香
氏名ふりがな ひらの あすか
都道府県士会 愛知県
年齢 43
勤務先名称 藤田医科大学病院

日本理学療法協会活動歴

2017年～2018年：日本理学療法士協会 職能関連業務執行委員会
急性期における理学療法士活指針モデル事業 協力委員
2019年：日本理学療法士協会 臨床実習指導者（中央）講習会世話人
2020年～現在：日本理学療法士協会 診療報酬改定に向けた検討会 構成員

都道府県理学療法士（協）会活動歴

2021年～2024年：愛知県理学療法士会 医療保険業務部 部長
2021年～2024年：愛知県理学療法学会 渉外連携部 部長
2025年～現在：愛知県理学療法士会 理事

学会連合及び同連合会員団体活動歴

2017年～2021年：日本理学療法学会
ガイドライン・用語策定委員会 作成グループ（脳卒中）班員
2021年～現在：日本神経理学療法学会 理事
2022年～現在：日本理学療法学会連合診療報酬に係るエビデンス構築委員会 委員

立候補の趣旨

私はこれまで、協会の活動として急性期の職域拡大や臨床教育等の職能活動に関わり、また日本神経理学療法学会の理事として、学術の臨床応用を通じて理学療法の発展を目指してまいりました。協会の活動や方向性を正しく理解し、また愛知県内の会員皆様から解決すべき課題を協会に届けられればと思い、再度立候補致しました。

大学病院で培ってきた臨床・研究・教育・管理の経験を活かして、協会や会員、そして理学療法を受ける対象者に貢献したいと考えております。一方で、現場の声や実践知が制度や方針に十分反映されているとは言い切れません。理学療法士の専門性が医療・介護等で適切に評価され、発揮できる環境づくりに貢献したいと考えております。

現場に根ざした視点を大切に、協会と会員をつなぐ役割を果たして参ります。何卒よろしくお願い申し上げます。



氏名 加藤 芳司
氏名ふりがな かとう よしじ
都道府県士会 愛知県
年齢 62
勤務先名称 名古屋葵大学

日本理学療法協会活動歴

日本理学療法士協会 代議員（令和4年度より現在に至る）

都道府県理学療法士（協）会活動歴

愛知県理学療法学会 理事（令和3年度より現在に至る）
研究局局長（令和5年度より現在に至る）
愛知県理学療法士会 名古屋南部地区支部長（令和6年度より現在に至る）

学会連合及び同連合会員団体活動歴

日本産業理学療法研究会 理事（令和3年度より現在に至る）
第1回日本理学療法学会連合学術大会 準備委員（令和6年度より現在に至る）

立候補の趣旨

これまで代議員を2期務めさせていただき、その責任を自覚し、協会・県士会の活動を横断的に捉えながら、会員の声を中央へ届ける役割を果たしてきました。私は社会人を経て理学療法士となり、役員歴は長くなく、キャリア後半に差し掛かる中で「職能への恩返し」として公益活動に携わってきました。年齢や肩書きではなく、いま何を還元できるかを基準に行動して参りました。若手中心の組織づくりが必要との声があることも理解し、それを踏まえた上で私は世代の対立ではなく対話と協働を選び、世代間で線を引くのではなく、お互いの強みを活かし合い、繋ぐ存在でありたいと考えています。今、私たちは、処遇改善、需給・配置の最適化、診療報酬改定への対応等の課題に直面しています。これらの論点に対し、現場の実感と一致した提案を行い、都道府県の声を中央へ届けることで、会員が安心して働き続けられる仕組みづくりに取り組みます。現在、県学会理事として学術推進に携わり、県士会とも連携しながら現場の課題を研究へ結びつけ、再び現場へ還元する循環づくりに取り組んでおります。また日本産業理学療法研究会理事として産業保健・領域の発展に関与し、第8回学術大会（愛知）では大会長として実質を重んじた運営を実現し、過去最大の参加数を得ました。これは愛知の仲間と共に築いた成果であり、地方から中央へ示した一つの実践例です。会員の視点に立ち、健康増進と疾病予防にも理学療法士が不可欠であることを社会に示すことを目標に、愛知で培ったネットワークを活かして都道府県の声を中央へ届ける橋渡し役を務めます。「あの時の決断があって今がある」と会員に感じていただける協会運営の実現に、誠実に取り組んでまいります。よろしくお願い申し上げます。



氏名 青木 一樹
氏名ふりがな あおきかずき
都道府県士会 愛知県
年齢 40
勤務先名称 (株) g e n e

日本理学療法協会活動歴

2018～ 公) 日本理学療法士協会 代議員
2023 公) 日本理学療法士協会 管理者研修制度検討委員

都道府県理学療法士(協)会活動歴

2012～ 一般社団法人 愛知県理学療法士会 愛知県理学療法白書委員会
2013～ NPO法人 愛知県理学療法学会 生涯学習部員
2016～ 公) 愛知県理学療法士会 地域包括ケア推進委員
2017～ 公) 愛知県理学療法士会 情報センター部員、総務部
2019～ 公) 愛知県理学療法士会 理事(継続)、
地域包括ケアシステム推進委員長(2022まで)
2021～ 公) 愛知県理学療法士会支部局副局長
2023～ 公) 愛知県理学療法士会支部局局长、学習局副局長、
リハビリテーション情報センター副局長
2025～ 公) 愛知県理学療法士会支部局局长

学会連合及び同連合会員団体活動歴

立候補の趣旨

この度、公益社団法人日本理学療法士協会の代議員に立候補いたしました、青木一樹と申します。代議員として、総会を通じて本会の発展に微力ながら寄与したいと存じ、立候補を決意いたしました。

私はこれまで、事前質問や口頭質問を通じ、本会のガバナンス強化を軸に提言してまいりました。財務諸表については、公益法人会計基準の遵守を前提とした上で、さらなる透明性を確保すべくアカウンティングを重視し、予算執行率の可視化や中期計画の提示を求めてきた次第です。

今回の任期においては、働き方の多様化が進む一方で、生涯学習制度の改訂がそのスピードに追いついていない現状を危惧しております。多様なキャリアパスに対応できるよう改訂を加速させること、ならびに登録・認定・専門理学療法士の更新申請フローの改善を強く求めていく所存です。

皆様とともに、リハビリテーション、そして理学療法士・理学療法の未来を支えていきたいと考えております。何卒よろしくお願い申し上げます。



氏名 本村 聖也

氏名ふりがな もとむら せいや

都道府県士会 愛知県

年齢 33

勤務先名称 中部労災病院

日本理学療法協会活動歴

2024年～2026年 日本理学療法士協会 補欠代議員

都道府県理学療法士（協）会活動歴

2017年～2019年 愛知県理学療法士協会 社会局

学会連合及び同連合会員団体活動歴

2019年～2021年 理学療法ガイドライン 第2版
用語策定委員会 脊髄損傷 システマティックレビュー班 班員

立候補の趣旨

この度、代議員選挙に立候補いたしました、中部労災病院の本村聖也と申します。近年、日本理学療法士協会を取り巻く制度やシステムは大きく変化しており、現場の理学療法士からは期待と同時に戸惑いや疑問の声も多く聞かれます。私自身も、「制度は現場に即しているのか」「多様な働き方を十分に支えられているのか」と感じる場面が少なくありません。

特に子育て世代の理学療法士にとっては、勤務形態や研修参加、協会活動への関与において時間的・環境的制約が大きいのが現状です。しかし、子育て世代は臨床・教育・研究の中核を担う重要な世代であり、安心して働き続け、協会活動にも参画できる環境整備は、協会の持続的な発展に不可欠だと考えています。

現場の意見を制度や方針に反映させるためには、協会組織の中で継続的に発言していくことが重要です。特に20～40歳代の若手・中堅世代や子育て世代の声を制度設計に反映させることは、私たち自身の未来を創ることにつながります。

これまでの代議員構成を振り返ると、若手・中堅世代の参画は十分とは言えず、協会活動が一部の限られた層のものとして受け止められている側面もあります。だからこそ、現場で働く一人の理学療法士として、同世代や子育て世代の意見に真摯に耳を傾け、協会に提言していきたいと考え、今回立候補を決意しました。

愛知県の代議員として日本理学療法士協会総会に出席し、現場の実情、特に若手・中堅世代や子育て世代の声が協会運営に反映されるよう、誠実に発言してまいります。

微力ではございますが、理学療法士一人ひとりがライフステージに応じて働き続けられ、協会に意義を見いだせる組織づくりに貢献できるよう精進してまいります。

何卒、ご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。



氏名 三宅 わか子

氏名ふりがな みやけわかこ

都道府県士会 愛知県

年齢 60

勤務先名称 星城大学リハビリテーション学部

日本理学療法協会活動歴

令和元～3年度 コアカリキュラム委員会委員 令和元～6年度 指定規則等検証部会部
会員 令和2年度～現在 代議員

都道府県理学療法士（協）会活動歴

平成25～26年度 特定非営利活動法人 愛知県理学療法学会理事
平成27～30年度（公社）愛知県理学療法士会理事 令和元～4年度（公社）愛知県
理学療法士会副代表理事 令和5年度～現在（公社）愛知県理学療法士会代表理事

学会連合及び同連合会員団体活動歴

平成25～令和2年度 日本理学療法教育学会運営幹事 令和元年度 第8回日本理学療
法教育学会学術大会大会長 令和3年度～現在（一社）日本理学療法教育学会副理事長

立候補の趣旨

愛知県の近年の社会情勢は全国平均並みに高齢化が進行中であり、産業都市であるが働き手の減少が危惧されています。近未来の県民のニーズは健康寿命の延伸・フレイル予防、地域での生活支援・在宅ケア、そして働き世代の健康支援や産業理学療法、スポーツ支援、子どもの発達支援や災害時のリハビリ支援体制構築へと拡大しており、理学療法士の活躍と成果を明確に県民の皆さまに提示することが求められています。

私はこれまで、愛知県理学療法学会理事、愛知県理学療法士会理事、日本理学療法教育学会副理事長、愛知県理学療法士連盟会員、そして現在は愛知県理学療法士会代表理事として、学術・教育・組織運営の各領域に携わってまいりました。理学療法士が直面する課題の多様化、現場の声を的確に組織運営へ反映させる仕組みの重要性と、我々を取り巻く制度や政策が、働き方や専門性の発揮に大きな影響を与えることを強く実感しています。診療報酬、地域包括ケア、教育制度、働き方改革など、我々の職能に関わる課題は政治的プロセスの中で決定されます。ですから学術、職能、政策活動の3点がつながり、理学療法士の専門性が正当に評価される環境を整えることが、今後の職能発展に不可欠だと考えています。この度、私は愛知県の代議員に立候補いたしました。地域に根づいた持続可能な組織作りと理学療法の未来につながる意思決定に貢献したいと考えています。これまで培ってきた経験とネットワークを活かし、士会、協会、学会、連盟の協同と価値ある組織づくりに尽力してまいります。どうぞご支援のほどよろしくお願いいたします。



氏名 壹岐 英正

氏名ふりがな いき ひでまさ

都道府県士会 愛知県

年齢 50

勤務先名称 渡辺病院

日本理学療法協会活動歴

指定規則等検証部会 班員 2021年度
令和4年度診療報酬改定に向けた検討会 構成員 2020～2022年度
令和6年度診療報酬改定に向けた検討会 構成員 2022～2024年度

都道府県理学療法士（協）会活動歴

愛知県理学療法学会 研修部 2007～2020年度（7期）
愛知県理学療法学会 理事 2021年度～現在（3期目）
愛知県理学療法士会 白書委員会 2012～2020年度（3期）

学会連合及び同連合会員団体活動歴

日本予防理学療法学会 評議員 2023年度～現在（2期目）
日本地域理学療法学会 評議員 2025年度～現在（1期目）

立候補の趣旨

この度、日本理学療法士協会代議員に立候補いたしました壹岐英正と申します。私は療法士約50名が在籍するケアミックス病院に勤務し、臨床・人材育成・組織運営に携わってまいりました。また、愛知県理学療法学会では理事として学術大会運営を中心にに関わり、現在は副理事長を拝命しております。
理学療法士数が増加し、若手理学療法士を取り巻く職域や将来像が不透明となる中、県士会の取り組みだけでなく、日本理学療法士協会が果たす役割の重要性を強く感じています。これまで県士会理事として協会理事会を傍聴してきた経験を生かし、現場の声を総会に反映させるため、責任をもって代議員の役割を果たしてまいります。



氏名 宮崎 友和
氏名ふりがな みやざき ともかず
都道府県士会 愛知県
年齢 48
勤務先名称 木村病院

日本理学療法協会活動歴

2020年～2021年	公益社団法人日本理学療法士協会	代議員
2022年～2023年	公益社団法人日本理学療法士協会	代議員
2024年～2025年	公益社団法人日本理学療法士協会	代議員

都道府県理学療法士（協）会活動歴

2013年～2016年	愛知県理学療法士会	職能局保険部
2015年～2016年	愛知県理学療法士会	名古屋東ブロック委員
2017年～2018年	愛知県理学療法士会	職能局倫理保険業務部長
2019年～2020年	愛知県理学療法士会	理事、男女共同参画検討委員
2021年～2022年	愛知県理学療法士会	理事、職能局副局長
2023年～2024年	愛知県理学療法士会	理事、職能局局长、組織事業検討委員
2025年～現在	愛知県理学療法士会	理事、職能局局长、事務局副局長

学会連合及び同連合会員団体活動歴

立候補の趣旨

この度、公益社団法人日本理学療法士協会の代議員に立候補いたしました。私はこれまで、愛知県理学療法士会の理事として、職能関連や組織運営に携わってまいりました。この経験を通じ、会員の皆様が抱える課題や現場の声を直接伺うとともに、組織としてそれらをどう形にしていくべきかを学んでまいりました。

現在、保健医療福祉を取り巻く環境は大きく変化しており、理学療法士の役割は多様化しています。このような転換期において、本協会が、会員にとって有益な組織であり続け、かつ社会から真に認められる存在になるためには、現場感覚を持った透明性の高い意思決定が不可欠です。代議員の役割は、会員の皆様の代表として、総会を通じて現場の意見や要望を確実に運営に届けることです。私は、これまでの理事経験で培った組織運営の視点と現場との接点を活かし、協会の意思決定プロセスに責任を持って参画します。会員の代表として皆様の声を真摯に受け止め、建設的な議論を行っていく所存です。何卒よろしくお願い申し上げます。



氏名 飯田 有輝

氏名ふりがな いいだ ゆうき

都道府県士会 愛知県

年齢 56

勤務先名称 愛知淑徳大学

日本理学療法協会活動歴

都道府県理学療法士（協）会活動歴

一般社団法人愛知県理学療法士会職能局 管理業務部職域別役職者急性期世話人
(2019年度～現在に至る)

一般社団法人愛知県理学療法士会職能局 医療保険業務部
(2021～2024年度)

特定非営利活動法人愛知県理学療法士会研究事業部「学術研究事業」循環器病対策企画
運営委員 (2025年度～現在に至る)

学会連合及び同連合会員団体活動歴

一般社団法人日本循環器理学療法学会理事 (2021年度～現在に至る)

立候補の趣旨

超高齢社会の進展と医療・介護人材不足が進む中で、私たち理学療法士の役割は、今まさに大きな転換期を迎えています。日々の臨床現場において、「理学療法士だからこそできること」を実感する場面が増える一方で、その力を十分に発揮できていないと感じることも少なくありません。

私は、理学療法士の専門性を基盤に、多職種と協力しながら、医療・地域を支える役割をさらに広げていくことが重要であると考えています。その実現に向け、代議員として次の三点に重点的に取り組みたいと考えております。

第一に、実効性のあるタスクシフト・タスクシェアの推進です。単なる権限拡大ではなく、科学的根拠と教育体制に基づいた、安心して取り組める業務範囲の拡大と制度づくりを進めてまいります。

第二に、質の保証と教育体制の充実です。業務の広がりに伴う倫理観の確立と、生涯学習や研修体制の整備を通じて、社会から信頼される理学療法士としての基盤を皆様とともに築いていきたいと考えています。

第三に、現場の声を協会へ届ける架け橋となることです。臨床・教育・研究の立場から得た経験を活かし、会員一人ひとりの思いや課題を協会運営に反映させていきます。理学療法士がこれからも社会に必要とされ、その専門性を十分に発揮できる環境を、皆様とともに築いていきたいと考えています。微力ではありますが、誠実に役割を果たしてまいりますので、どうか温かいご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。



氏名 岸川 典明
氏名ふりがな きしかわ みちあき
都道府県士会 愛知県
年齢 62
勤務先名称 愛知医科大学病院

日本理学療法協会活動歴

平成12年～平成24年度 日本理学療法士協会教育局生涯学習部 部員
平成26年度～現在 日本理学療法士協会代議員

都道府県理学療法士（協）会活動歴

昭和63年～平成6年度	兵庫県理学療法士会	広報部	部員
平成6年度	愛知県理学療法士会	教育部	部員
平成7年～平成8年度	愛知県理学療法士会	学術資料部長	
平成8年度	愛知県理学療法士会	学術局生涯学習担当	
平成9年～平成16年度	愛知県理学療法士会	教育部長	
平成17年～平成18年度	愛知県理学療法士会	理事	生涯学習部長
平成19年	愛知県理学療法士会	理事	学術局長
平成20年～平成24年度	特定非営利活動法人愛知県理学療法士学会	理事	学術局長
平成25年度～令和4年度	特定非営利活動法人愛知県理学療法士学会		副理事長

学会連合及び同連合会員団体活動歴

平成27年度～令和2年度 日本呼吸理学療法学会 運営幹事
令和元年 第6回日本呼吸理学療法学会学術大会大会長
令和3年度～現在 日本呼吸理学療法学会 監事

立候補の趣旨

理学療法士は社会のニーズに応えるのが国家資格者としての義務と考えており、会員は自らにその責任を課せなければならない。協会は卒後教育の一環として生涯学習システムを構築し、都道府県士会はその指導下に生涯学習システム（新人教育プログラム）を開始することとなった。私は、このシステム運用当初より、県士会教育部長を務め新人教育プログラムを推進し、2000年からは協会の生涯学習部員として生涯学習システムの普及に努めた。

現在は、日本呼吸理学療法学会の監事を務めている。呼吸理学療法の発展、理学療法士の研究・教育活動を通じ学会の理事への意見助言を通じて協会の発展への寄与し、学会同様、協会の方針や運営の在り方について俯瞰し、県士会員の意見を反映していきたい。



氏名 井上 倫恵

氏名ふりがな いのうえ ともえ

都道府県士会 愛知県

年齢 40

勤務先名称 日本福祉大学健康科学部

日本理学療法協会活動歴

2015～2020年度 ウィメンズヘルス・メンズヘルス理学療法部門 運営幹事
2018～2021年度 日本理学療法士協会 国際委員会 委員

都道府県理学療法士（協）会活動歴

2016年度 第26回愛知県理学療法学術大会 事務局長

学会連合及び同連合会員団体活動歴

2021年度～2025年6月 日本ウィメンズヘルス・メンズヘルス理学療法研究会
副理事長、財務委員、骨盤底領域エビデンス構築WG
2025年度～ 一般社団法人日本ウィメンズヘルス・メンズヘルス理学療法学会
副理事長、財務委員、骨盤底領域エビデンス構築WG

立候補の趣旨

この度、代議員に立候補いたしました、井上（平川）倫恵と申します。
日本理学療法士協会が公開している統計情報によりますと、2025年3月末時点における日本理学療法士協会の会員数は14万人を超え、そのうち40歳以下の会員が約71%、女性の会員が約39%を占めています。しかしながら、現在の日本理学療法士協会の代議員における年齢・性別分布は、これらの組織全体の会員の分布とは大きく乖離しているのが現状です。私は、次世代を担う若手あるいは中堅の会員も組織運営に参画し、ベテランの諸先生方とともに業界全体の価値を高めていく責務があると感じております。
私はこれまで、研究会・学会役員としての活動を通じて、エビデンスの構築、関連学会と連携した診療報酬新規収載に向けた要望書の提出、財務的な運営基盤の構築、国際的な学术交流、事業計画・運営に携わってまいりました。日本理学療法士協会の事業・管理は、会員の皆様の会費を主たる財源として運営されています。私は、研究会・学会運営の経験で培われたこれらの視点を代議員としての活動に十分に活かし、日本理学療法士協会の事業計画が会員のニーズを満たすものであるのか、また、予算・決算が適切であるのか精査し、皆様からの大切なご意見を日本理学療法士協会へ届けてまいりたいと存じます。
「理学療法士」が、これからも社会に必要とされる職業であり続けるために、私は愛知県を代表する代議員として尽力してまいりたい所存です。皆様のご支援とご協力を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。



氏名 福田 章真
氏名ふりがな ふくた あきまさ
都道府県士会 愛知県
年齢 33
勤務先名称 名古屋大学医学部附属病院

日本理学療法協会活動歴

2024年～ 日本理学療法士協会 代議員

都道府県理学療法士（協）会活動歴

2021年～ 愛知県理学療法士会 国際活動等推進検討委員会 委員
2025年～ 愛知県理学療法士会 国際活動等推進検討委員会 委員長

学会連合及び同連合会員団体活動歴

立候補の趣旨

前回より代議員を務めさせていただいております。
この2年間の活動にて、日本理学療法士協会、都道府県士会、
そして会員との距離がまだまだ離れており、各々の考えや活動を
共有・理解する機会が少ないことを実感いたしました。
日本理学療法士会と愛知県理学療法士会の方針を踏まえながら、
特に同世代・若い世代の現場の意見を集約し発信していくとともに、
協会・県士会と会員の皆様の距離がより近づくように
尽力していきたいと考えております。
また、2025年度より委員長を務めております、愛知県理学療法士会の
国際活動等推進検討委員会にて、研修会の企画や
臨床で活用できる英会話動画の発信などを行なっております。
今後も皆様の役に立てるようなコンテンツを提供できるよう尽力していきます。
よろしく願いいたします。



氏名 池野 倫弘
氏名ふりがな いけの ともひろ
都道府県士会 愛知県
年齢 47
勤務先名称 有限会社R K てっく訪問看護ステーション

日本理学療法協会活動歴

2019年度～現在 愛知県代議員

都道府県理学療法士（協）会活動歴

【NPO法人愛知県理学療法学会】
2011年度～2020年度 事務局総務部長

【公益社団法人愛知県理学療法士会】
2011年度～2020年度 事務局総務部長
2014年度 地域包括ケアシステム推進委員会 委員長
2015年度～現在 地域包括ケアシステム推進委員会 委員
2021年度～2022年度 理事、社会局長
2023年度～2024年度 副代表理事
2025年度～現在 副代表理事・事務局長

学会連合及び同連合会員団体活動歴

なし

立候補の趣旨

2000年に理学療法士免許を取得して以降、理学療法士・理学療法士会の会員として多くの活動に関わらせていただきました。職場では地域リハビリテーションを主として多くの職種の方とも連携しながら活動してきました。愛知県理学療法士会では行政や他団体との折衝にも多く関わらせていただきました。理学療法士がもっと活躍できる社会となるには、個人・職場での活動もちろん必要ですが、団体として世の中に発信していく事が大変重要だと感じております。

これから何十年も理学療法士として活躍する若い世代の会員の皆さんが、自分の仕事に誇りを持って安心して活動できる土壌ができるよう、日本理学療法士協会の代議員として訴えていく所存です。



氏名 上原 信太郎
氏名ふりがな うえはらしんたろう
都道府県士会 愛知県
年齢 45
勤務先名称 藤田医科大学保健衛生学部

日本理学療法協会活動歴

2019年 ガイドライン・用語策定委員会システマティックレビュー班
2020年 認定・専門理学療法士制度作業部会部員

都道府県理学療法士（協）会活動歴

学会連合及び同連合会員団体活動歴

2021年～ 日本神経理学療法学会評議員
2021年～ 日本基礎理学療法学会評議員
2022年～ 日本神経理学療法学会学術誌編集委員会編集委員
2022年～ 日本理学療法学会連合編集委員会査読委員

立候補の趣旨

私はこれまで、理学療法学の学術的発展に貢献することを使命とし、理学療法学会連合の活動を中心に組み込んでまいりました。設立当初より神経・基礎理学療法学会の評議員を務め、学術誌の査読委員・編集委員、研究助成金応募の審査などを通じて、研究の質の担保と底上げに努めてきました。

一方で、少子高齢化の進行に伴い、理学療法士に求められる役割は医療機関内にとどまらず、地域包括ケア、予防・健康増進、産業保健などへと拡大し、社会の要請に応じて変化し続けています。世界に先駆けて超高齢社会にある日本において、理学療法・リハビリテーション医療の成熟は、今後世界的に進む高齢社会における重要なモデルとなり得ます。

私は、臨床の価値を学術的根拠で支え、学術成果を現場に還元する循環を強めることで、理学療法士が「いま」と「これから」の社会で責務を果たせる協会運営に貢献したいと考えています。教育・研修の充実と研究と臨床の橋渡しを重視し、社会にとって実効性の高い協会となるよう、代議員として学術的視点と社会への還元の視点をもって協会活動に参画する所存です。

何卒ご支援のほどよろしくお願い申し上げます。